

(1) 未来を担う人材が育つ！
「子ども・若者応援戦略」

① 子どもの権利の保障と
健やかな育ちの支援

【現状・背景】

- 不登校児童数、いじめ認知件数、児童虐待相談対応件数が増加している
- 相対的貧困率が上昇傾向にある
- 親の年収により進学率に格差が生じている

② 確かな学力の育成、体力向上の推進

【現状・背景】

- 全国学力テスト（小学校）結果が全国平均より低い状況にある
- 体力・運動能力が全国平均より低い状況にある

③ グローバル人材・ものづくり人材・ICT人材の育成に向けた教育の充実

【現状・背景】

- 学習指導要領の改訂（理数教育・外国語教育の充実、情報活用能力）
- グローバル化やICT技術に対応した人材の育成が求められている

④ 学びを支える教育環境の充実

【現状・背景】

- 医療的な支援が必要な児童が増加している
- ICT活用した教育環境を整備していく必要がある

⑤ 若者が学び活躍できる環境づくり

【現状・背景】

- 学生が関東・関西に流出している
- 若年層の低所得世帯が増加している
- ニートやひきこもりなどの若年無業者層が一定数存在すると見込まれている

(2) 安心して子育てができる！
「子育て応援戦略」

① 妊娠から子育てにわたる
切れ目ない支援

【現状・背景】

- 希望出生率（1.8）と実際の合計特殊出生率（1.44）に差が生じている
- 未婚化・晩婚化・晩産化が進行している

② 働きながら子育てができる環境づくり

【現状・背景】

- 女性の労働力人口は増加している
- 共働き世帯の割合が増加している
- 子供の数が理想の数より少ない理由
「経済的余裕」「身体的・精神的負担」
「仕事と子育ての両立」

③ 社会全体で子育てを支援する
環境づくり

【現状・背景】

- 夫の育児参加や親族の支援が出生数に影響を与える可能性がある
- 子育て支援事業が出生数に影響を与える可能性がある

(1) みんなにやさしい！
「誰もが安心戦略」

①健康寿命の延伸に向けた
健康づくり・予防医療の推進

【現状・背景】

- 団塊の世代が後期高齢者となり、医療や介護などの需要の増加が見込まれる
- 平均寿命は延伸しているが、健康寿命との差は微増している

②認知症施策の充実など
地域包括ケアシステムの深化・推進

【現状・背景】

- 認知症患者の増加が懸念されている
- 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるような支援が求められている

③障害者の地域生活支援

【現状・背景】

- 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行（平成 28 年）
- 障害者の就労など地域生活への支援が求められている

④救急救命体制の充実

【現状・背景】

- 高齢化の進展に伴い、救急搬送人員の増加など救急需要が増加している

⑤バリアフリーのまちづくり

【現状・背景】

- 高齢者や障害者など、誰もが安全・快適で気軽に外出でき、社会活動に参加できるまちづくりが求められている

⑥安心・安全な地域づくり

【現状・背景】

- 本市の街頭犯罪等 10 種の認知件数は政令指定都市ワースト（平成 28 年）となっている
- 交通事故による死者数の半数を 65 歳以上が占めている

⑦多文化共生の推進

【現状・背景】

- ネパールやベトナムなどからの留学生の増加に伴い、外国人住民が増加している
- 日本語指導が必要な児童生徒が増加している

(2) みんなが主役・担い手！
「元気活躍戦略」

①高齢者の活躍推進

【現状・背景】

- 健康寿命が延伸しており、元気な高齢者が増加している
- 労働力人口に占める高齢者の割合が増加している

②女性の活躍推進

【現状・背景】

- 女性の労働力人口が増加しているものの、本市の若い世代の女性の労働力率は低い
- 県内企業の女性管理職割合は全国最低水準にある

(3) みんなでつくる！
「地域コミュニティ活性化戦略」

①活躍できる場の形成と
参加に向けた地域活動の推進

【現状・背景】

- 単身世帯の増加
- 65 歳以上の高齢単身世帯の増加
- 町内会加入率の低下

②地域の多様な担い手の育成・支援

【現状・背景】

- 町内会など既存組織の負担の増加が懸念される

(1) 備えを万全に！
「地域支え合い戦略」

①防災啓発活動の推進

【現状・背景】

- 今後30年の南海トラフ地震発生確率
70~80%
- 1時間降水量50mm以上の年間発生回数の増加
- 災害に対する備えをしている家庭の割合
約60%

②地域特性に応じた防災対策の推進

【現状・背景】

- 南海トラフ地震の想定震度は「7」
- 自然災害による被災リスクは地域により異なる
- 地域の防災活動に参加経験のある市民割合
約15%

(2) 災害時でも安心！
「災害対応力向上戦略」

①消防・救助体制の充実、防災拠点の強化

【現状・背景】

- 地震による死者（想定）
最大：5,500人
- 地震火災による焼失家屋（想定）
最大：21,000棟

②情報収集伝達手段の多様化・充実

【現状・背景】

- 自助力の向上に向けて、情報を早く正確に伝えることが求められる
- SNSの普及など情報伝達手段が多様化している

③指定避難所の機能強化

【現状・背景】

- 地震による避難所への避難者数（想定）
発災1日後：138,000人
発災1週間後：185,000人
発災1月後：68,000人

④耐震対策・浸水対策など
都市防災機能の強化

【現状・背景】

- 本市南西部は国内最大のゼロメートル地帯にあり、地震や風水害による被害が懸念されている
- 地震による全壊棟数（最大）
想定：34,000棟

⑤帰宅困難者対策の推進

【現状・背景】

- 名古屋駅周辺での帰宅困難来訪者
想定：42,000人

(3) 環境にやさしい！
「持続可能都市戦略」

①低炭素なライフスタイル・
ビジネススタイルへの転換

【現状・背景】

- 本市の平均気温は上昇傾向であり、温暖化が進行している
- ヒートアイランド現象により、「都心で快適に過ごせている」と感じている市民の割合の低迷

②緑に親しめる環境づくり、
水循環の回復、生物多様性の保全

【現状・背景】

- 公園・街路樹の安全性の確保
- 平成22年に開催されたCOP10から10年の節目を迎える

③社会経済情勢の変化に対応した
3Rの推進

【現状・背景】

- 環境問題に対する市民の意識の低下
- 本市のごみ処理量は、近年横ばい傾向
- 平成12年のごみ非常事態宣言から20年の節目を迎える

(1) 来たれアジア・リニア！
「都市機能強化戦略」

① リニア中央新幹線開業に向けた
都心部の魅力づくり

【現状・背景】

- リニア開業後の名古屋駅起点の120分交流圏人口は全国最大となる
- 防災性と利便性を備えた都市機能の整備やにぎわいづくり、回遊性の向上などが必要

② 第20回アジア競技大会
に向けた基盤整備

【現状・背景】

- 第20回アジア競技大会を平成38(2026)年に予定
- アジア大会の効果を最大限発揮することが必要
- 選手村などの整備は大会開催後の活用を見据えることが必要である

③ 圏域の交通ネットワークの
利便性の向上

【現状・背景】

- 誰もが安全・快適・気軽に利用することができるよう交通の円滑性が求められている
- 市民や来訪者など活動する方が不便なく移動できる環境が必要である

④ 中部国際空港・名古屋港の機能強化

【現状・背景】

- 国際競争力の強化に向けて中部国際空港の機能を強化していく必要がある
- ものづくり産業を支える物流拠点である名古屋港の機能を強化していく必要がある

⑤ 先進的なモビリティの活用促進

【現状・背景】

- 産業を取り巻く環境は急速に変化している
- 自動車の自動運転技術などの技術革新の進展をまちづくりに活かしていく必要がある

(2) 交流を促進し新たな価値を創出！
「イノベーション戦略」

① 先端技術の活用、創業などによる
価値づくりの促進

【現状・背景】

- AIやICTなどの先端技術の活用による経済成長が見込まれる
- 女性の創業を促進することで、女性が働きやすい場の増加にもつながる

② 次世代産業の振興、戦略的企業誘致

【現状・背景】

- 中部圏の自動車・航空機部品の全国シェアは、約60%となっている
- 本市の情報通信産業は、東京の8分の1・大阪の2分の1に留まる

③ 産業交流の促進、MICEの誘致

【現状・背景】

- イノベーション創出を促進するため、産業交流の活性化を図る必要がある
- 国際的な都市間競争が激化する中、本市の国際的な評価は低い状況にある
- 本市での国際会議開催件数は国内第5位

④ 地域商業の活性化

【現状・背景】

- 地域のつながりの場となる商店街の活性化が求められている
- 中小企業の経営者の高齢化が進んでいる
- 後継者難による廃業の増加が懸念されている

⑤ 将来を担う産業人材の育成

【現状・背景】

- 少子化による生産年齢人口の減少が懸念されている
- 大阪市や福岡市ではクリエイティブ人材の活躍につながる取り組みが実施されている

(3) 魅力資源の磨き上げ！ 「魅力向上・発信戦略」

①名古屋城を核とした 魅力軸の創出・発信

【現状・背景】

- 2022年に名古屋城木造天守閣竣工を予定
- 各エリアの魅力を面的につなぐことが必要
- 本丸御殿全面公開・金シャチ横丁開業など
観光資源としての魅力の高まり

②文化・歴史資源、観光資源など 名古屋が有する魅力の向上・発信

【現状・背景】

- 愛知県への外国人訪問率は他都市と比較して
低い状況にある
- オリパラ・リニア・アジア大会など
国内外への魅力発信のチャンス

③インバウンドの促進、 おもてなしの充実

【現状・背景】

- 国の訪日外国人旅行者数の目標（平成32年）
は、4,000万人
- 誰もが不自由なく快適に観光できる環境が必要
である

④スポーツ、ポップカルチャーを 活かした魅力の創出・発信

【現状・背景】

- オリパラ・アジア大会に向け、市民の
スポーツへの関心を高めるチャンス
- 「世界コスプレサミット」の大型イベント化

⑤シビックプライドの醸成

【現状・背景】

- 「名古屋のまちを知っている」と自信を持って
回答できる市民が少ない
- 市民のまちへの推奨度が低い状況にある